

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（第3回）

議事概要

1 日時

令和2年9月7日（月） 19:00～20:40

2 場所

石川県庁11階1109会議室

3 出席者

座長	谷内江 昭宏	金沢大学附属病院	副病院長
委員	飯沼 由嗣	金沢医科大学病院	感染制御室長
	岡田 俊英	石川県立中央病院	病院長
	新多 寿	小松市民病院	病院長
	高田 重男	金沢市立病院	病院事業管理者
	吉村 光弘	公立能登総合病院	病院事業管理者
	品川 誠	市立輪島病院	院長
	安田 健二	石川県医師会	会長
	小藤 幹恵	石川県看護協会	会長
	市村 宏	金沢大学（医薬保健研究域医学系ウイルス感染症制御学分野）	教授
	三宅 邦明	株式会社ディー・エヌ・エー	チーフメディカルオフィサー

※厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部参与

※阪上委員は、所用によりご欠席

4 議事概要

<県健康福祉部長挨拶>

- ・委員による2度のご議論を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策の一定の方向性が見えてきたことから、今回、提言案としてまとめたところ。
- ・本日は、本県における感染状況について報告するとともに、提言案についてご議論いただきたい

<資料1 本県における感染状況について>

9月6日時点の感染状況等について報告

委員からは特に意見無し

<資料2 (案)【中間提言】新型コロナウイルス感染症への対応について>

(1 検査体制の更なる充実)

- 集合契約に参加した医療機関名は、風評被害が懸念されることを踏まえて公表せず、新たに設けられる受診相談センターにより、紹介や受診調整等を図ること
- 発熱患者が相談する際の、かかりつけ医と受診相談センターとの連携や役割分担について、今後整理が必要
- 検査精度の高いPCR検査と迅速に結果が出る抗原検査、それぞれの特性を理解して、検査体制の充実を図ることが重要
- 抗原検査は結果の判別が困難な場合がある一方で、PCR検査は判別指標が数値（C T値）で得られる利点を活かして、今後の知見も参考にしながら、より良い活用方針を検討していくこと

(2 医療提供体制の確保)

- 在宅療養は、家族内感染や市中感染の可能性が残ることから、これまでと同様、入院もしくは宿泊療養の運用としつつ、実情に応じて柔軟に対応すること
- 患者数が非常に多くなった場合の宿泊療養施設への直接受入について、どの時点で切り替えるのかや、振り分けを誰がどのような観点で担うのかについて、国の議論も踏まえつつ、制度設計を進めておくこと
- LINEなどのサービスを併用しながら、患者と医療従事者との接触機会を減らすことにより、医療従事者の感染予防を図ることが重要

(3 クラスタ対策の充実)

- クラスタを発生させないことがまずは大切であり、高齢者福祉施設等において、発生予防のための研修や、事前の準備を行うことが重要
- クラスタ発生施設における広範な検査の実施について、感染拡大防止の観点から、関係機関が連携して取り組むこと

- クラスタ発生時の発生施設側と行政側の情報共有・交換のあり方について、これまでの経験を踏まえ、整理しておくことが必要
- クラスタ発生時の感染状況把握のための検査実施にあたり、行政検査と保険適用検査など、いずれになるのかの判断の目安を整理することが必要
- いしかわクラスタ対策班の先行運用で見えてきた課題について、今後調整していくことが必要

(関連意見)

- 医療従事者に対する偏見が、医療従事者のモチベーションの低下や、医療従事者を職業として選択しづらい環境そのものにつながっており、県民の理解を得る機会を増やしていくことが重要

5 その他

中間提言案は、出席委員から概ね了解が得られ、一部の修正については座長に一任